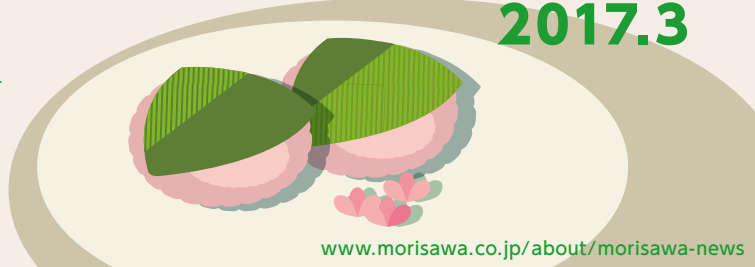


- ▶ 「RISAPRESS Color720/720P/620」のご紹介
- ▶ TOPICS: 「MCCatalog+」新機能紹介!!
- ▶ マメ知識: 大きく変わる教育環境!? — 教育における「トリプルA」とは? —
- ▶ フォント あ・ら・かると: 「はせ筆」
- ▶ メンズDTP!!: Adobe Creative Cloudの管理者変更について
- ▶ イベント情報

今月の
フォント

- 本 文: ソフトゴシック (R)
- 見出し: UD新ゴコンデンス70 (B)



www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

RISAPRESSカラー機にNewモデルが登場・販売開始 「RISAPRESS Color720/720P/620」のご紹介

オンデマンド印刷では、カタログやチラシなどにおける小ロット・短納期の印刷を行うだけでなく、手間やコストがかかる面倒な印刷や付加価値の高いものをオンデマンド印刷機で印刷することも求められています。そのためプリンタメーカー各社では、高い性能と品質で、幅広いビジネスシーンでも活用でき、印刷物の価値を高めるさまざまな技術が搭載されたデジタル印刷機を開発・販売しています。今回ご紹介するRISAPRESSシリーズの新機種「RISAPRESS Color720/720P^{*1}/620」は、安定した品質と共にユーザが求められる多様なニーズに応えるため、ハイボリュームな長尺印刷・封筒印刷や350g/m²の厚紙対応など、用紙の特徴を活かした多様なデザイン・高付加価値な商品を生み出すことが可能なカラープリンティングシステムで、ライトプロダクションにおけるフルカラー生産機としての機能を徹底的に磨き上げた技術が、POD事業における新たな付加価値を創出します。

^{*1} 720Pはプリンタモデル



優れたメディア対応力で印刷サービス領域を拡大

最大1,200mmの長尺用紙に印刷が可能となりました。新たなオプションとして最大給紙容量1,000枚・750mm幅に対応した長尺大容量給紙ユニットを用意し、A4仕上げの三つ折りパンフレット、長尺バナーなどハイボリュームの長尺印刷が行えます。また厚紙の最大対応坪量を350g/m²と強化し、両面印刷にも対応が可能。そのため、パッケージや販促素材の作成など印刷サービスのバリエーションが増えました。このほか封筒印刷^{*2}についても印刷時の速度と定着の安定性が向上しました。封筒ガイド取り付けキット(MK-746)を装着した大容量給紙トレイ(LU-202シリーズ)と、長尺給紙紙キット(MK-740 TypeB)を併用することで、封筒印刷・長尺印刷が1台で行え、省設置スペースながら生産性を大幅に高めます。

^{*2} 封筒印刷専用定着ユニット(EF-103)が必要



▲RISAPRESS Color720 長尺大容量給紙ユニット装着
1,200mm長尺印刷、750mm大量長尺印刷、封筒の
大量印刷に対応

高速スキャンによる企業内印刷での利便性拡大

独自の高速カラースキャン技術を採用した自動両面原稿送り装置(DF-706^{*3})により、両面原稿のスキャンスピードは毎分240ページ^{*4}という従来機種比で3倍以上の高速スキャンを実現しました。積載量も最大300枚(64g/m²)を確保しスピーディなデータ化を実現します。また、自動原稿送り装置には重送検知機能を備え、大量の文書スキャン作業を確実に実行できます。プロダクションプリント機でありながら、オフィス用複合機(MFP)と同様に、ネットワークを通じた制御やリソースにアクセスすることができ、企業内印刷での利便性が高まりました。

^{*3} RISAPRESS Color720/620のオプション

^{*4} A4ヨコ 300dpi時

ドキュメント品質を向上させる高い見当精度

スキュー調整機能を追加しました。回転とスキューの補正値を入力することで、画像処理での高精度な表裏見当合わせを実現します。名刺やショップカード、チケットなど、高い表裏見当精度が求められる印刷物に対し、容易な調整が行えます。また搭載したスキャナ^{*5}を利用して自動的に裏面位置調整を行う表裏調整機能により、短時間でスキルレスな調整が行えます。

^{*5} RISAPRESS Color720Pはスキャナ非搭載のため利用できません

角背加工やフルブリード対応で、高度な中とじ製本を作成

オプションの中とじユニット(SD-513)は、ステイブル品質とアウトプットの安定性を高めた中とじ製本機です。冊子移動型のステイブル機構により4点ステイブルが可能のほか、めがねクリンチ機能の採用やステイブル空打検出機能によるアウトプットの安定性、さらに小口断裁機能や重ね中折り・三つ折り機能も備えています。また製本機能を拡張^{*6}することで、オフセット印刷用製本機に匹敵する高品質な商品が作成でき、多彩な後加工もプリントから製本処理まで一括して行えるため、短納期が可能で生産性を向上させます。

^{*6} 拡張オプション



▲中とじユニット(SD-513)

-拡張オプション-

スクエアフォールドユニット(FD-504)

厚みのある中とじ冊子の背表紙を角背加工し、膨らみを小さくします。

クリーサーユニット(CR-101)

折り目部に筋入れをすることで、トナー割れを防止し、シャープな仕上がり印刷品質を保ちます。

トリマーユニット(TU-503)

用紙の天地をカットします。標準の小口断裁機能との併用でフルブリード出力が可能です。



2015年2月にインバウンド対応情報発信ツールとして『MCCatalog+』がリリースされてから2年が経ちました。テキストポップアップ機能と多言語翻訳機能でのコンテンツ配信を軸に、音声読み上げ機能の実装や翻訳言語拡張(タイ語)など、お使いいただいているお客様の要望や市場のニーズに応えながらアップグレードを重ねて参りました。今回は『MCCatalog+』の新機能を中心にご紹介させていただきます。

新機能紹介

1. Webブラウザ版カタボケサイトでの多言語表示

2016年12月のアップデートにより、Webブラウザでも多言語翻訳済みのコンテンツを閲覧することが可能となりました(音声読み上げは対応しておりません)。カタボケアプリをインストールしていない新しい読者の方も簡単にコンテンツを見ることができるようになり、利便性が大きく向上しました。もちろん気に入った読者には、カタボケアプリのダウンロードによって、カタボケの多彩なコンテンツをより一層楽しんでいただくことも可能となっております。



▲スマートフォンWebブラウザでの表示画面。多言語ポップアップ表示が可能になりました(ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません)



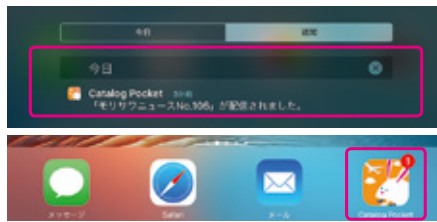
▲カタボケアプリでの表示画面。段組みや背景透過などさらに読みやすい設計が施されています

2. プッシュ通知機能

多くのユーザからご要望をいただいていたプッシュ通知機能が実装されました。

プッシュ通知機能は定期発行しているコンテンツに「シリーズ設定」を行うことで、次の号がリリースされると通知される機能です。

これによって読みたいコンテンツのお知らせが自動的に届くため、見逃すことなくコンテンツを定期的に関連することが出来ます。



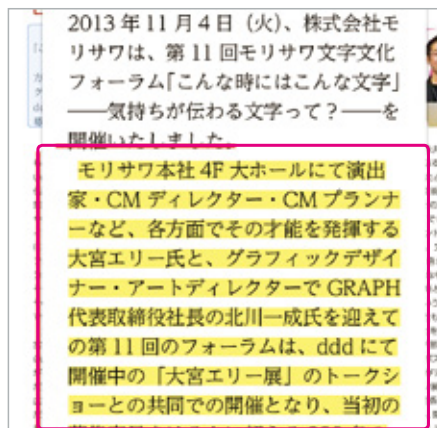
▲スマートフォンの通知画面とアイコンパッチで通知されます

3. アプリ表示機能追加

▶音声読み上げ時のテキストハイライト

音声読み上げ機能を使った際にテキストハイライトができるようになり、コンテンツの読み上げ箇所がわかりやすくなりました。

▶テキストポップアップ時の表示色変更



▲読み上げ箇所のハイライト表示

テキストポップアップの表示色を変更できるようになりました。「背景=白色/文字=黒色」という標準的な表示では情報を取得しにくい方へも対応することが可能となりました。



▲ポップアップの表示色変更後。画像は白黒反転ですが、表示色の選択も可能です

『MCCatalog+』今後の展望

1. 千葉市美術館の「おもてなしICT実証」に参画

2017年1月4日より千葉市美術館で行われている訪日外国人を対象にした「おもてなしICT実証」に『MCCatalog+』の技術を提供しています。『MCCatalog+』と訪日外国人に用意されるICカード、各施設に置かれるタブレット端末を連携して地域の観光情報やレストランのメニューなどを自動的にユーザの母国語で表示し、快適な観光をサポートします。

2. 広報紙の採用事例続々!

東京都品川区では、『MCCatalog+』を活用し、電子書籍版「広報しながわ」を配信することが発表されました。今回の品川区をはじめ、すでに『MCCatalog+』をご利用いただいている行政団体も多く、行政での広報紙発信に採用されており、今後も拡大が期待されます。

主な採用自治体

- ・三芳町(広報みよし)
- ・呉市(広報くれ)
- ・大阪市浪速区(浪速区観光ガイドブック)
- ・富士宮市(広報ふじのみや)
- ・安芸高田市(広報安芸高田)
- ・目黒区(めぐろ区報)
- ・品川区(広報しながわ) *来年度より予定など

最後に

主要ターゲットの一つであるインバウンド市場も2016年度の統計では訪日外国人旅客数が2,400万人を突破し、前年度比24%増とまだまだ市場の勢いは衰えておりません。また、自治体などの行政での採用も増加しており、障がい者差別解消法への対応や居住外国人の方への公平な情報発信など『MCCatalog+』の活躍の場がどんどん広がっています。

今後も進化し続ける『MCCatalog+』にご期待ください!!

学習指導要領は10年ぶりの全面改訂がまもなく告示されます(高校は来年度)。これにより、2020年代の学校教育への取組みは議論の段階から現実的な対応として動き始めます。改訂の内容には改めて触れるとして、今回は「未来の学習」のポイントのひとつをご紹介します。

総務省が推進するICT化の中で、3年前に始められた「教育クラウドプラットフォーム」の実証事業は、低コストで簡便にいつでも多様なデジタルコンテンツを教育現場が活用できる標準システムを確立することがテーマでした。世界17カ国112校、児童生徒および教員約9,500名が参加して行われたこの実証事業は、その成果がまもなく公表される予定です。その中で、クラウドの有効活用として報告されるであろうキーワードのひとつが「トリプルA」です。

1. アクティブ(主体性・協働的で深い学び)

事業開始時には、ドリルなど個別学習での利用がほとんどだったものの、児童生徒や教員がシステムに慣れるにつれ、授業や校外学習でも使ってみようと協働学習ツールの利用が広がっていったということです。アクティブ・ラーニングの定着・発展に向け、協働学習ツールを使った実践が積み重ねられています。

2. アダプティブ(個に応じた最適な学び)

自動出題・自動採点などAIを活用したドリルの活用や習熟度の見える化などが進められています。現場での利用ログを追いかけてみると、朝(ドリル学習)から昼(授業・校外学習)、夜(家庭学習)へと進化していくこともわかってきました。このように児童生徒や教員の利用ログを分析・活用できるのも、マルチOS、マルチ端末での利用が可能な「クラウドシステム」ならではの大きなメリットとして認識されています。

3. アシスティブ(学習・教育のサポート)

学校外の環境でもスマートフォンなどで利用できるメリットを最大限に活用した「クラウドシステム」は、家庭や不登校の児童生徒などへの支援にも活用されます。僻地の学校や海外日本人学校でも都会の生徒と同じ最先端のサービスが円滑に利用でき、さまざまな教育格差を是正するうえでも有効であると考えられています。

先日のpage2017展示会では、編集組版ソフト(「MC-Smart」)を出品しているモリスワブースで、数式や漢文の編集に関心の高いお客様を数多く見かけました。教育ICTの動きの中でデジタル教材やCBT(Computer-Based Testing)、さらにはDB構築による個別学習コンテンツへの対応など、標準的な解決策が明確になっていない教科ではアイデアの創出と試行錯誤が繰り返されているのかもしれない。

学習教材や試験問題などの編集・制作者は、印刷物だけではなく、デジタルコンテンツとして教育に活用され、成果を上げる教材作りを模索されているのではないのでしょうか。豊かなレガシー(精神的・物理的遺産)があるが故にICT化への対応が遅れた日本においても、ティッピングポイント(突然急激に変化する時点)は近づいていると言われています。「未来の学び」をしつかりと創り上げていきたいものです。

永 フォント あ・ら・かると

はせ筆

「フォント あ・ら・かると」では
毎号、ひとつのモリスワ書体を
ご紹介します。

今回は「はせ筆」です。

「はせ筆」は、筆ペンの風合いを残す、しなやかで柔らかい骨格を備えた筆文字系デザイン書体です。2016年の新書体として『MORISAWA PASSPORT』に加わりました。

肉筆ならではのにじみのある線や、角や点に残るインクの溜まりが、文字にたたかみのある表情を与えています。漢字は正方形を意識した、しっかりとした骨格ですが、「はせ筆」独特の画線処理によって堅苦しさを感ぜせず、かわいらしい、ポップな印象を感ぜさせます。ひらがなは重心を低く設定した落ち着いた上品なデザインです。キャッチコピーとして大きなサイズで見せる文字としても、挨拶状などの読ませ

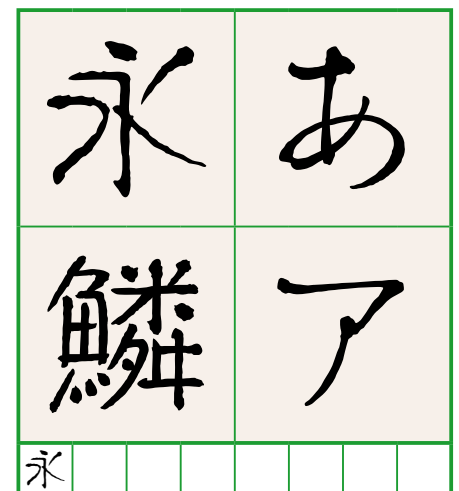
る文字としても使いやすく、縦組み・横組みのどちらでもバランスの取りやすい、オールマイティな筆文字書体です。

「はせ筆」のもう一つの特徴が英数字です。スタンダードな骨格ですが、漢字・仮名と同じよう

●使用例



に、手書きならではの線の揺らぎやインクの溜まりを取り入れ、和文と併記しても違和感なく、筆文字の日本らしさを感ぜさせます。観光地のチラシやレストランのメニューなど、海外の方が目にするデザインにもご活用ください。



「はせ筆」は、『MORISAWA PASSPORT』をご契約のお客様は、いつでもインストールしてご利用いただけます。

イケテル&ルーキーの メンズDTP!!

イケメンの「イケテル先輩」と
勘違い系新人「ルーキー君」のドタバタ制作室

今回のテーマは — Adobe Creative Cloudの
管理者変更について

ルーキー：先輩！ さっきCreative Cloudの管理を総務部から制作部に移すって言われたんですけど、なんのことでですか？



イケテル：ああ。今までは総務部がライセンスの管理を行っていたんだが、急に担当者が退職したこともあって、管理を制作部に移そうっていう話だな。

ルーキー：はあ。でも、ライセンスの管理って実際にはどうすれば良いんでしょうか。

イケテル：おう。まずは管理者権限の移行からだな。

■管理者権限の移行方法とは？

イケテル：まず総務部から、VIPの契約番号と旧管理者のAdobe IDを覚えてもらっておかないといけない。

ルーキー：はい。ここに、印刷してもらいました。

イケテル：お、気が利くな。そしたらインターネットで「VIP登録変更申請」と検索して、表示されるAdobeのページを開く。



ルーキー：ネットからで良いんですか？

イケテル：ああ。この画面は管理者の変更だけでなく、たとえば社名が変わったときや会社が移転したとき、購入するリセラー、代理店を変えるときなんかにも使うからな(図①参照)。

ルーキー：書面や捺印が要らないのは良いですね。

イケテル：「メイン管理者変更」の画面に進むと、アドミンコンソールから行るか、メールでAdobeに申請するかという方法がでてくる。

ルーキー：アドミンコンソールから行う場合は、旧管理者のIDとパスワードが必要なんですよ。でも、その辺の引き継ぎ無しで辞めちゃったみたいですよ。

イケテル：それならメールでの申請だな。VIP番号とAdobe IDがわかっていて良かった(図②参照)。

ルーキー：VIP番号もIDもわからない場合はどうなるんですか？

イケテル：その場合は、リセラーに問い合わせればなんとかなるらしいぞ。さて、メールにVIP番号と旧管理者のID、新管理者のIDは……、お前のアドレスにしておくから。あとは変更の理由を書いて、送信っと。



ルーキー：5営業日かかるって書いてありますね。

イケテル：最長でという意味だろう。

ルーキー：返信が来たら、どうなるんですか？


イケテル：お前のAdobe IDとパスワードで管理者用の画面「アドミンコンソール」に入れるようになるから、そこから今後のライセンス管理をすることになるな。

ルーキー：えー、僕で大丈夫でしょうか。




イケテル：管理と言っても人が増えたときのライセンス割り当て、減ったときのライセンス解除、更新時期が来たときの手続きぐらいだから大丈夫だろう。これも勉強だ。

ルーキー：わかりました。ありがとうございます。



1 VIP登録変更申請画面
インターネットで「VIP登録変更申請」と検索すると表示される画面。ここから各種変更手続きが行える。なお、メイン管理者のAdobe ID、パスワードがわかっている場合はアドミンコンソールからの変更も可能



2 メールによる登録変更申請
VIP番号と管理者のAdobe IDまでわかっている場合はメールでの申請が可能。
<DL-AVL-jcustomer@adobe.com>へ、VIP番号、旧管理者のAdobe ID、新管理者のAdobe ID、変更理由を記載して送信する

文字組版の教室

受講料：10,000円(税込) / 主催：株式会社モリサワ / 協賛：日本エディタースクール

対象：印刷会社・印刷関連会社・デザイン事務所などでDTP・組版編集を担当する方、印刷会社の営業担当者、編集者、校正者、その他文字や組版に関わりのある方。

●東京開催

会場：株式会社モリサワ 東京本社 9F・セミナールーム / 定員：40名

○2017年4月26日(水) 10:00~17:00(受付は9:30より)

講師：井上 芽久美(株式会社モリサワ)

お申込み▶ <https://morisawa.eventcreate.net/event/1423>

○2017年5月26日(金) 10:00~17:00(受付は9:30より)

講師：長谷川 昌紀(株式会社モリサワ)

お申込み▶ <https://morisawa.eventcreate.net/event/1424>

●大阪開催

会場：株式会社モリサワ 本社 4F・セミナールーム

定員：50名

○2017年4月25日(火) 10:00~17:00

講師：加藤 早紀(株式会社モリサワ)

詳しくは、下記にてご確認ください。

www.morisawa.co.jp/about/news

イベント情報

編集後記

「三寒四温」という言葉を思い起こさせる時期となりました。とは言え、手紙などでは2月の時候のあいさつだそう。そして、もともとは中国東北部や朝鮮半島北部で使われた言葉です。日本では「3日間寒い日が続いた後に4日間少し暖かい日が続く」という7日周期の気候変化はあまりないようですが、春を感じさせる言葉として伝わるのではないのでしょうか。ちなみに、中国語では「三寒四温」という言葉はなく、「三寒四暖」と言うそうです。

✉ E-Mail: m-news@morisawa.co.jp

発行：株式会社モリサワ 企画・編集：経営企画部 マーケティング課

※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

モリサワ www.morisawa.co.jp
株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel.06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下高井町2-27 Tel.03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel.022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel.052-201-2341
札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6サウスシティ2F Tel.011-700-0112
広島営業所 〒730-0805 広島市中区十日市町1-6-27広島印刷会館1F Tel.082-296-1114
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel.092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田平ビル2F Tel.099-252-2255